

1 学校教育目標
高い志と未来を切り拓く力を持ち、地域や国際社会の発展に貢献できる、人間性豊かな人材を育成する。

2 学校経営ビジョン
①「質実剛健にして、報恩感謝の誠を尽くし、高志博学に励む」精神のもとに、中高一貫教育を推進し、学校教育目標の実現に努める。 ②生徒の進路第一志望の実現に向けて、3年間を見通した教育実践に努める。 ③家庭・地域社会との相互理解を通して、開かれた学校、信頼される学校づくりに努める。

3 本年度の重点目標	4 前年度の成果と課題
①「質実剛健、報恩感謝」の精神を涵養させ、基本的な生活習慣、規律ある生活態度、豊かな人間性を持った生徒の育成に取り組む。 ②「高志博学」の精神を涵養させ、学問に対する貪欲な姿勢、向上心を持った生徒の育成に取り組む。 ③「探究Ⅱ、部活動等」を充実させ、自主的、自立的な姿勢を持った生徒の育成に取り組む。 ④学校からの情報発信を頻繁に行うとともに、発信内容を充実させ、家庭・地域社会との連携を図り、開かれた学校、信頼される学校づくりに取り組む。 ⑤武雄青陵中学校との連携を充実させ、中高一貫教育の推進に取り組む。	①高校3年間を見通した進路指導計画のもと、進路検討会など進路指導部と学年団の密な連携や授業研究会等教科力向上の取組に努める。 ②生徒指導部や保健厚生部と連携し、全職員で挨拶指導や生活指導に取り組み、基本的な生活習慣の確立を目指す。 ③「武高さくらプラン」を見直し、生徒一人ひとりの進路意識の向上につなげる。 ④保護者・地域と連携し、信頼される開かれた学校づくりを推進していくため、広報活動の充実をさらに進める。

5 総括表
①「質実剛健、報恩感謝」の精神を涵養させ、基本的な生活習慣、規律ある生活態度、豊かな人間性を持った生徒の育成に取り組む。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●心の教育	思いやりの心の育成	・中高一貫教育校として、併設中学校の生徒との交流を通じ、思いやりの気持ちを高める。	・開校記念登山を併設中学校と合同で行うことにより、中学生との交流を深める。また、道中でのゴミ拾いのボランティア活動にも取り組む。 ・併設中学校の生徒と合同部活練習の機会を昨年度より増やす。 ・ジョイントスタディを通して、併設中学校の生徒に勉強の仕方等を丁寧に、わかりやすく教える。
教育活動	○生徒指導	基本的な生活習慣の確立 生徒会活動の活発化	・清楚清潔な身なりの指導 ・防犯意識の高揚 ・年間の生徒指導措置と交通事故の件数を0にする。 ・中高交流の活性化に取り組む。	・担任(学年)は生徒指導部や保健厚生部との連絡会や個別面談週間を学期毎に設ける。 ・集会等を利用して、服装・頭髪や礼儀・躰指導を定期的に行う。 ・空き教室や自転車の、施錠を徹底する。 ・中高合同遠足や部活動の交流を実施する。
教育活動	●健康・体づくり	望ましい生活習慣の形成	・欠席数を年間延べ1500以下、遅刻数を800以下とする。 ・歯と口からの健康作りを推進する。 ・校内環境美化に努める。	・年間皆勤賞を設けて表彰する。 ・ブラッシング指導を実施する。 ・美化コンクールを年間2回実施する。 ・学校全体として、ゴミ0運動に取り組む。
教育活動	○図書館教育	読書の推進	・図書館利用の活性化 ・読書感想文への取組 ・新配置の機能の充実	・図書館内の掲示を充実させ、「図書館だより」を発行する。 ・進路関係の資料を充実させ、コンピュータ・コーナーを設置する。 ・校内読書会を充実した物にする。
教育活動	○保健教育	学校保健教育の推進	・応急措置件数を1,800件以下にする。	・内科的訴えに対応するため、相談時間を確保する。

②「高志博学」の精神を涵養させ、学問に対する貪欲な姿勢、向上心を持った生徒の育成に取り組む。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○教職員の資質向上	学問への興味を喚起させ、学力をつける授業の実践	・自己目標申告による目標達成を図る。 ・大学入試問題の研究をする。 ・授業研究会を各教科で年2回以上実施する。	・自己目標を設定・申告し、それぞれ目標達成を目指す。 ・教科指導に活かすため、前年度センター試験や九州大学等個別学力試験の問題を解く。 ・校内外の公開授業等を活用し、教科指導力の向上を図る。
教育活動	●学力向上	指導方法の改善	・小テスト等の実施により、分野毎の到達度を確認し、年度末の到達度が70%以上になるようにする。	・シラバスや到達度について、各教科で検討を行う。 ・教材研究に努める。 ・シラバスは5月下旬に生徒に提示する。
		実力の養成	・各科目全国偏差値を1年60、2年58以上を目指す。	・家庭学習時間(平日3時間・休日5時間以上)の確保に努める。
教育活動	○進路指導	進路希望の達成	・一人ひとりの生徒が適切な進路選択ができるようにする。 ・1年総合偏差値60以上140名 ・2年総合偏差値58以上140名 ・3年国公立大学の合格150名以上、うち難関国公立大学・学部合格12名以上	・進路検討会を1年次より計画的に行い、3年間を見通した指導を行う。 ・難関大学希望者への個別指導を、早い時期から実施する。 ・課題の個別化等の工夫を図る。 ・文理コース分けの指導、面談の充実を図る。

③「探究Ⅱ、部活動等」を充実させ、自主的、自立的な姿勢を持った生徒の育成に取り組む。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
特定課題	○探究Ⅱ	探究Ⅱの充実と進路達成の意欲向上	・探究Ⅱの各教育活動の精選と充実を図る。 ・生徒の進路実現に寄与する、特色ある教育活動を推進する。	・SPPと課題探究等を充実発展させる。 ・講演会や様々なコンクール等への挑戦、生徒による体験発表等を実施する。 ・生徒・保護者の進路意識向上を図るため、各種講演会・出前講義等を実施する。 ・校外活動への参加を奨励する。

④学校からの情報発信を頻繁に行うとともに、発信内容を充実させ、家庭・地域社会との連携を図り、開かれた学校、信頼される学校づくりに取り組む。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○学校運営方針	本年度の重点目標の周知	・重点目標を知っている保護者の割合を80%以上にする。	・PTA総会、学年保護者会、学年通信、広報紙及び学校のホームページを通して、随時周知を図る。
学校運営	○開かれた学校づくり	PTA総会や学年保護者会の充実	・保護者の出席率を60%以上にする。	・時期を見据えた進路講演会を実施する。
		中学生体験入学の充実	・中学生の出席率を入学定員の180%以上にする。	・事前の広報周知を工夫する。 ・中学生の興味・関心を引く模擬授業を実施する。
		情報発信の推進	・広報紙「武陵」を年10回発行し、内容の改善を行う。 ・ホームページの更新を毎月行う。	・外部掲示分はカラーで印刷する。 ・近隣中学校と共に、教育委員会や図書館等へも配布する。 ・各部活動の活動状況(公式戦の成績等)を掲載する。

⑤武雄青陵中学校との連携を充実させ、中高一貫教育の推進に取り組む。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
特定課題	○中高一貫	併設中学校との連携を進める。	・あらゆる分野での交流を、学期毎に行う。	・教科や部活動の指導、合同開催行事を通して、職員間や生徒間の交流を深める。